経営実践力を身につけて、儲かる農業の実現へ

農業総合センター農業大学校

農業大学校では、将来、学生が農業経営者としての「儲かる農業」実現に向け必要なスキルを身につけるため、「経営実践プロジェクト学習」を実施しています。令和３年度は、農業部、園芸部の学生７グループが、農業経営者の取組事例を参考にしたり、外部講師による講義、演習を通じてニーズ・シーズ分析手法や価格決定方法等を学びながら、園芸６品目で生産から販売までの一連の事業活動に取り組み、実践的な経験を積むことで経営者意識を持つきっかけにすることができました。

カンショでの取組（農業部）

普通作コースの学生がカンショで学習に取り組み、実習では買取業者、直売所、菓子店等５者と販売交渉し、契約のまとまった２者へ販売するなど、実践的な経験を積みました。収支は赤字になったものの、生産から販売までの結果を分析し、所得向上には可販収量の増加や販売単価の向上が必要なことを認識できたことで、経営者意識の醸成につながりました。

写真１　グループ演習の様子

写真２
コンビニでの陳列作業の様子

施設野菜での取組（園芸部）

施設野菜コースの学生が４グループに分かれイチゴ、トマト（大玉、フルーツトマト）、キュウリの３品目で学習に取り組み、実習では近隣の菓子店、コンビニ等と商談し、販売したことで、実践的な経験を積むことができました。収益目標を達成できなかったグループもありましたが、収支を的確に分析し、省力化による労働時間の短縮が所得向上に必要なことを認識できたことで、経営者意識の醸成につながりました。

花きでの取組（園芸部）

花きコースの学生が２グループに分かれて、切り花（フリージア等）、鉢物（シクラメン）で学習に取り組み、実習では近隣の生花店と商談し、販売するなど実践的な経験を積むことができました。収益目標は達成できませんでしたが、所得向上には品質管理の徹底による販売単価の向上や、生産コスト削減が必要なことを認識できたことで、経営者意識の醸成につながりました。

写真３　生花店での商談の様子